

2021 年入試改革

共通テスト英語 見直し結論！

リーディング、リスニングは均等配点！

当初方針どおり！「発音、アクセント、語句整序は出題しない」もママ！

旺文社 教育情報センター 2019 年 11 月 15 日

本日、大学入試センターは、2021 年共通テスト「英語」に関わる以下の 2 点について、いずれも 6 月発表の方針どおりで行く結論を発表した。

【結論】共通テスト英語

- ・発音、アクセント、語句整序等は単独問題では出題しない。
- ・RL は均等配点 (R=リーディング 100 点、L=リスニング 100 点)。

●見直しの背景

この 2 点はいずれもセンター試験からの大幅な変更であり、6 月 7 日に入試センターが発表した「問題作成方針」、「出題教科・科目の出題方法等」で、すでに決定事項として出されていたもの。ところが 11 月 1 日に萩生田文部科学大臣による成績提供システムの見送りが発表。それに伴って本件も見直しが行われた。

なぜシステムの見送りが本件に飛び火したのか。それはこの 2 点が入試(特に共通テスト)での英語の外部検定(以下、外検)の利用拡大を踏まえたものだったからだ。

2018 年 6 月発表の「問題作成の方向性と試行調査の趣旨」や、2019 年 4 月発表の第 2 回試行調査の結果報告書(いずれも大学入試センター)をみると、本件導入には以下のような理由が挙げられている。

【発音、アクセント、語句整序等を単独で出題しない理由】

これまでセンター試験では、発音、アクセント、語句整序の問題で Speaking や Writing への目配りをしてきた。しかしこれらをマーク式で問うことには批判もあり、また、新入試で 4 技能の外検利用が拡大することを踏まえると、あえて共通テストで出題する必要がない。

【RL を均等配点にする理由】

英語教育改革で 4 技能をバランスよく把握することが求められているため、また、多くの外検では 4 技能の配点が均等になっているため。

確かにいずれも外検利用拡大を踏まえての施策ではあるが、理由はそれだけではないこともわかる。

今回、入試センターは見直しを行い、結局 6 月の方針ママで行く結論を出したわけだが、今回はその理由を次のように示している。つまり、「発音、アクセント、語句整序等を単独で出題しないのは、英語教育の観点から共通テストの導入を機に改善を図るため」、また、「RL 均等配点は、指導要領が英語 4 技能のバランス良い育成を目指しているため」ということだ。

なお、これは 2021 年の共通テストに関わるものであり、2022 年の方針については来年 6 月ごろに発表予定と加えられている。2021 年へ向けた見直しはもともと時期的に困難と言われていた。2022 年方針について加えられたこの 1 文が、再度見直しがあることを示唆しているのかはわからない。



混乱する共通テスト、新入試だが、見直しの可能性が騒がれていたのは以下の 3 点。このうちまだ「もしかしたら…」と不安が残るのは(3)の共通テスト記述式だ。

- (1)成績提供システム ⇒ 見送り決定。成績を独自回収で外検入試を行うのかどうかは各大学の予告待ち。
- (2)共テ英語の「発音等を出題しない方針」&「RL 均等配点」⇒ 当初方針どおりで決定。
- (3)共テ記述式 ⇒ ???

果たして共通テストの記述式はいつ落ち着くのか。現在、採点を請け負った民間業者が採点作業を検証する「準備事業」が行われている。この結果が記述式の是非に影響しそうだが、その公表を待ってからの検討は、時期的にあまりに遅すぎる。

一方、野党からは昨日、衆議院に記述式の中止法案が提出された。現在の臨時国会が 12 月 9 日までなので、ここが一つの目安になるか。いずれにしてもタイムリミットはとっくに過ぎている。